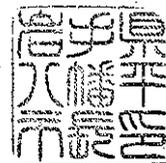


八建設第102308号

平成20年10月23日

国土交通省道路局長 殿

八幡平市長 田村正彦



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

道路整備行政の推進につきましては、日頃より格別の御指導、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、八幡平市における「今後の道路行政についての意見・提案」につきまして、別紙のとおり回答いたしますので、よろしくお取り計らい願います。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

岩手県 八幡平市

地域の活性化のための基盤整備として道路網の整備は不可欠です。そのためにも、地域の拠点施設や重点項目、観光地、開発計画地域、物流ネットワークなど、考えられる項目を網羅したうえで、国道・県道・市町村道及び東北自動車道などの、道路全体計画網を策定し具体的な事業導入を図ってはいかがでしょうか。

また、地域の国道・県道・市町村道の改良事業においては、地方道路交付金事業制度が不可欠となっております。今後も地方道路交付金事業制度の存続と共に、更なる拡大、拡充を要望いたします。あわせて、地方道路整備臨時貸付金制度につきましても、地方財政の厳しい中道路整備事業にとりましては、大変有効な制度であります。この制度におきましても存続をお願いいたしたく要望いたします。

②-1 地域の現状と抱える課題

岩手県 八幡平市

○ 現状

国道 282 号西根バイパスにつきましては、平成 19 年 12 月 28 日に第 1 期工区が開通し、第 2 期工区の約 1km について測量設計・地元説明会が開催されました。今後、用地交渉に入り随時工事に着手してゆく予定です。

市町村道におきましては、道路維持補修事業費・除雪費がかなりのウエイトをしめ、ほとんどが単独費扱いとなっております。

○ 課題

早期全線開通を要望しておりますが、道路財源の確保が不透明な状況となっております。

財政が厳しい中、単独費を抑え適正な道路管理をしてゆくことが重要であり、今後に向けての課題となっております。

②-2 地域の目指すべき将来像

八幡平市は、農(みのり)と輝(ひかり)の大地をキャッチフレーズに平成17年9月に誕生しました。岩手山・八幡平・安比高原の恵みに満ちた、交流新拠点をめざしております。豊かな緑や良質な水、美しい景観にあふれるこの地域の恵みを生かして、産業を振興し暮らしをさらに豊かなものにしてまいります。

農(みのり):八幡平市の基幹産業である農業を意味し、米やほうれんそう、りんどう、畜産物など他に誇り得る優れた農産物をイメージしています。また、健やかで生きがいや喜びにあふれた人々が「結い(ゆい)」の精神で、連携・協働していく姿の意味も込めています。

輝(ひかり):燃える若葉の緑、清らかな水と澄んだ空の青、鮮やかな紅葉の赤、純白の雪をイメージし、豊かな森林と躍動感あふれる観光や商工業を表しています。また、北東北の交流拠点として人や物、情報が活発に行き交い、未来に向かって限りない発展をする八幡平市の将来像を意味しています。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

岩手県 八幡平市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	安比スマートインターチェンジの設置	観光客の増加による地域の活性化	別添、資料

安比スマートICの整備の必要性



■安比スマートIC設置により期待される効果

- ・スマートICの整備により、安比高原へのアクセス性が向上
36分（現況）→30分（整備後）：**約6分短縮**
- ・さらに、スマートICにおけるETC割引とセットの旅行パック商品の開発により、減少傾向にある**スキー客の増加や、その他レジャー施設の利用増加**が期待される。

ETC割引と宿泊、リフト券などをセットにしたバック旅行の開発！



▲安比高原牧場



▲バック旅行の商品開発



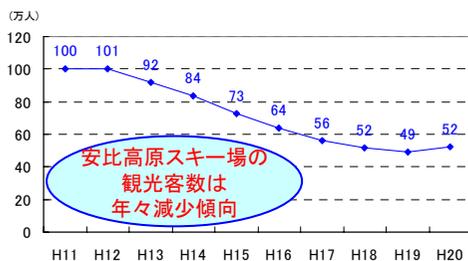
▲安比高原スキー場

▲盛岡市～安比高原への所要時間短縮

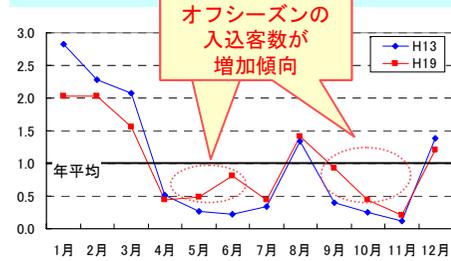
資料：H17道路交通センサス

■安比高原観光の現状と課題

- ・安比高原は、年間約117万人の観光客が訪れる岩手管内有数の観光地である。
- ・中でも安比高原スキー場は、岩手県内スキー客の約4割が利用し、岩手県第1位のシェアを占めている。
- ・しかしながら、近年、**スキー場の観光客は減少傾向**にある。
- ・安比高原を訪れる観光客の**9割以上は、自家用車**を利用しており、道路整備によるアクセス向上が求められている。
- ・また、約半数の観光客は、**ICからスキー場へのアクセスが悪いなどの道路状況についての不満**を感じている。
- ・一方、春～秋のスキーオフシーズンにおいては、集客施設等の整備により、観光客は増加傾向にあることから、今後は、より通年型の観光地形成を目指す。



▲安比高原スキー場入り込み観光客の推移



▲安比高原入り込み観光客の季節変動
資料：H19観光統計概要